

目的 わが国における正月の祝い雑煮は「味噌雑煮」及び「すまし雑煮」のほかに「小豆雑煮」(せんざい)を用いる地域がある。そこで筆者らは、小豆利用の地域分布を調べ、前報までに(1990, 1991, 1992)主に日本海沿岸地域に色濃く分布し、さらに九州西北部、瀬戸内沿岸より太平洋沿岸(伊勢, 志摩, 宮城)に及んでいることを報告した。引続いて調査中であるが、本報では瀬戸内の一部にも分布することを確認したのでこれを補うとともに、善哉の言葉が佛典に由来することから、佛教関係での利用に注目して調べたところ、浄土真宗での報恩講の際に用いられることが判明したので、あわせて報告したい。

調査方法及び結果 既報までの調査と同様、県農林部、市町村役場などの生活改善職員のご協力を得て、現地踏査を行った。なお、調査は現在小豆雑煮利用の実情を調べたもので、当該地域でのその利用率までは調べなかった。

その結果、愛媛県東予、新居浜地方では香川県と同様、白味噌調味汁中に小豆あん入りの白丸餅を入れて仕上げた雑煮が分布していた。また、佛教関係では石川県白山山麓、滋賀県塩津地方の報恩講ではせんざい(餅)又は小豆汁と呼ばれる淡い味噌調味(豆腐又は餅を入れる)の一品が必ず添えられる。今回の調査と既報とを合わせて、小豆雑煮の分布の概要をみると、せんざい風雑煮(甘、又は淡塩)は島根半島以東(特に鳥取, 兵庫, 京都)で利用地域が多く、九州西北部がこれに次ぐものであった。また、香川, 志摩, 宮城, 新潟地方では地域的に集中していたが、香川地方では味噌調味のあん入り白丸餅利用の特色がみられた。今後、小豆利用の始源及び佛教とのかかわりについて、さらに調査を進めたい。